

修士課程科目(H30)		授業形態	講義	先端バ ^イ 材：選択必修2単位 高度バ ^イ 材：自由2単位
科目名	分子薬理学・創薬科学	ナンバリング コード		先端バ ^イ 材：GMDMFB1010 高度バ ^イ 材：GMDMAM1013
テーマ				
開講時期	1年後期 金曜日5限			
授業場所	桜ヶ丘共通教育棟502講義室			
担当教員	宮田篤郎 (連絡先：amiyata@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp) 馬場昌範 (連絡先：m-baba@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp)			
G I O	1 2	薬物と生体内分子との相互作用の分子メカニズムを理解する。 薬物の探索から開発に至る一連の過程と方法について学習する。		
S B O	1 2 3 4 5 6 7 8	1 薬効の分子メカニズムの基礎的概念を理解し、説明できる。 2 創薬ターゲット分子の探索について具体的に述べるができる 3 遺伝子治療医薬と再生医薬の現況及びそれらの作用機序を理解し、説明できる。 4 抗癌剤の分子レベルでの作用機構と副作用について説明できる。 5 抗癌剤耐性の分子機構について説明できる。 6 ターゲット分子の特性に基づいた薬物の分子デザインについて理解し、説明できる。 7 薬物の安全性(副作用)や体内動態について理解し、説明できる。 8 バイオ医薬品と分子標的医薬としての抗体医薬の特徴を述べるができる。		
授業内容(90分×15回)				担当者
1	薬理作用と生体内情報伝達			宮田 篤郎
2	薬理作用の分子機序(I)：合成酵素と分解酵素			宮田 篤郎
3	薬理作用の分子機序(II)：受容体の構造と機能			宮田 篤郎
4	薬理作用の分子機序(III)：イオンチャネル			栗原 崇
5	薬理作用の分子機序(IV)：細胞内シグナル伝達			神戸 悠輝
6	特別講義			児島 将康 (久留米大学)
7	遺伝子治療医薬			小賤 健一郎
8	抗がん剤と分子標的薬剤			古川 龍彦
9	抗がん剤と分子標的薬剤			河原 康一
10	創薬科学総論			馬場 昌範
11	新薬の開発と有害事象			馬場 昌範
12	創薬科学演習			馬場 昌範
13	創薬科学各論			馬場 昌範
14	抗ウイルス薬の開発			馬場 昌範
15	分子標的医療と抗体医薬			伊東 祐二
教科書・参考書	適宜紹介する			
評価基準および方法	授業態度20%、レポートと成果発表による評価80%			
アクティブ・ラーニング	方法： 回数：			
時間外対応	オフィスアワー	随時メールにて対応します		
	メール・HP			
	授業後			
その他				